

久富木原玲先生 経歴・研究業績



経歴

- 一九五一年七月 鹿児島県生まれ  
一九七一年三月 鹿児島県立鶴丸高校卒業  
一九七一年四月 早稲田大学法学部入学  
一九七五年三月 同大学同学部卒業  
一九七六年四月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学  
一九七九年三月 同大学同大学院修士課程修了  
一九七九年四月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程進学  
一九八五年三月 同大学同大学院博士課程単位取得  
一九八七年四月 鹿児島女子短期大学養学科専任講師  
一九九〇年四月 同短期大学助教授  
一九九三年四月 共立女子短期大学文科助教授  
二〇〇一年四月 同短期大学教授  
二〇〇六年四月 愛知県立大学文学部教授  
二〇〇九年四月 同大学日本文化学部教授（学部改組のため・  
二〇一一年一二月 教研審委員）

二〇一三年四月 同大学同学部学部長

二〇一五年四月 同大学同学部教授、現在に至る(二〇一五—

一六年 教審査委員)

二〇一六年八月 ブラジル・サンパウロ大学・哲学・文学・人

間科学部・大学院・二〇一六年度・客員教授  
(年度末まで)

## 業績

### I 海外における講演・シンポジウム・講義等

1 【サンパウロ大学における講演①】二〇一三年三月七日

講演題目「若紫卷の「垣間見」——『源氏物語』の絵面  
を手がかりに」

於 サンパウロ大学・哲学・文学・人間科学部、日本文  
化研究所

2 【サンパウロ大学における講演②】二〇一三年三月一〇日

講演題目「朧月夜の恋——『源氏物語』花宴卷の艶なる  
出逢い」

於 サンパウロ大学・哲学・文学・人間科学部、日本文  
化研究所

3 【パリ国際シンポジウム招待講演およびディスカッサン

ト】二〇一四年三月一八日—二五日

講演題目「『源氏物語』笑いの歌の地平——近江君の考  
察から」

於 フランス国立東洋言語文化大学(通称INALC

O)及びフランス国立パリ第七大学(デイドロ大学)

4 【オーストラリア国立大学における招待講演】二〇一四年  
六月二六日

講演題目「源氏物語・若紫卷のかいま見をめぐる」  
アジア・オセアニアの大学院生のためのワークショップ  
における基調講演

於 オーストラリア国立大学(キャンベラ)

※独立行政法人国際交流基金シドニー事務所による後援

5 【スペインにおける学術交流・研究発表】二〇一四年七月

一五日—二一日  
発表題目「前近代日本文学における自我意識の発露——  
笑いという視点から」

於 マドリッド・国際政治学研究所

6 【マドリッド・CEUサンパブロ大学における講演】二〇

一五年一月三日  
講演題目「古典文学が放つ権力相対化の力——『源氏物  
語』と『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』」

於 CEUサンパブロ大学法学部講堂

7 【サンパウロ大学院における講演】二〇一六年八月二

五日—一〇月二九日

講義内容「『源氏物語』を読む」一回目「伊勢物語」初  
段と『源氏物語』、二回目以降は、「桐壺卷」、「若紫卷」、

「花宴巻」、「常夏巻」についての講義（各四時間、合計一八時間）

於 サンパウロ大学大学院・日本文化研究所

※独立行政法人国際交流基金本部からの専門家派遣（サンパウロ大学客員教授として）

8

【ブラジル・アマゾナス連邦大学における国際学会招待講演】二〇一六年九月二二日

講演題目「日本古典文学における貴種流離譚について

——『源氏物語』『須磨・明石巻』を「海」やポルトガルを含む「海外」とのかかわりから探る」

第二四回全伯日本語・日本文学・日本文化・大学教師学会及び第一一回ブラジル日本研究国際学会

於 アマゾナス連邦大学（アマゾナス州・マナウス市）

9

【サンパウロ大学における国際シンポジウム】二〇一六年一〇月一九日

講演題目「明治時代の源氏物語——文学・国家の視点から」（全体テーマは「漱石とその時代」）

於 サンパウロ大学・日本文化研究所

10

【サンパウロ大学・哲学・文学・人間科学部における講演】二〇一六年一〇月二七日

講演題目「谷崎潤一郎と源氏物語——『細雪』『夢の浮橋』をめぐる」

於 サンパウロ大学・哲学・文学・人間科学部

11 【ポルトガル・ミーニョ大学における国際シンポジウム】

二〇一七年三月四日—一〇日

発表題目「日本人は海外との関係をどのように捉えてきたのか？——日本古典文学の例から考える」

II

著書・編著・共著など（論文のほとんどは単著・編著に収録済みのため、省略）

単著

1 『源氏物語 歌と呪性』（中古文学研究叢書）若草書房 一九九七年一〇月

2 『源氏物語の変貌——とはずがたり・たけくらべ・源氏新作能の世界』おうふう 二〇〇八年三月

3 『源氏物語と和歌の論——異端へのまなざし』青簡社 二〇一七年三月

編著・共編著

1 『和歌とは何か』（『日本文学を読みかえる』三（編著）有精堂 一九九六年六月

2 『源氏物語の歌と人物』（共編著）翰林書房 二〇〇九年五月

3 『武家の文物と源氏物語絵——尾張徳川家伝来品を起点として』翰林書房 二〇一二年三月

共著

1 鈴木日出男・藤井貞和編『日本文芸史』第二巻 河出書房

- 新社 一九八六年一〇月
- 2 一冊の講座『古今和歌集』有精堂 一九八七年三月
- 3 久保田淳・野山嘉正・堀信夫編『日本秀歌秀句の辞典』小学館 一九九五年三月
- 4 岩波講座『日本文学史』五 岩波書店 一九九五年一月
- 5 久保田淳編『日本文学史』おうふう 一九九七年五月
- 6 佐佐木幸綱編『短歌名言辞典』東京書籍 一九九七年一〇月
- 7 『歌ことば歌枕大辞典』角川書店 一九九九年五月
- 8 週刊朝日百科『枕草子 土佐日記』〈世界の文学二五〉一九九九年一二月
- 9 『源氏物語事典』大和書房 二〇〇二年五月
- 10 『三省堂名歌名句辞典』三省堂 二〇〇四年九月
- 11 『宿木 前半』(源氏物語の鑑賞と基礎知識『国文学解釈と鑑賞』別冊) 至文堂 二〇〇五年六月
- 12 小町谷照彦外編『王朝文学文化歴史事典』笠間書院 二〇一一年一月
- 13 愛知県立大学蔵「ことさ」(住吉物語絵) 解説『武家の文物と源氏物語絵——尾張徳川家伝来品を起点として』翰林書房 二〇一二年三月(名倉ミサ子氏との共同執筆)
- 14 愛知県立大学蔵「源氏絵色紙」二七図 書誌・解説 前掲書(13)に同じ(高橋亨氏との共同執筆)
- 15 『風葉和歌集 新注一』青簡社 二〇一六年五月
- III 書評・学会展望等
- 1 書評「平安歌人伝をよむ(業平・貫之・伊勢・和泉式部・公任)」『日本文学』一九八六年五月号
- 2 書評 増田繁夫著『冥き途——評伝 和泉式部』『国文学』学燈社 一九八八年八月
- 3 書評 石丸晶子『式子内親王伝』『日本文学』一九九〇年八月
- 4 書評 山中智恵子『斎宮三部作』『日本文学』一九九四年五月
- 5 書評 石丸晶子『式子内親王伝』(朝日文庫)『人文自然科学論集』一〇〇号 東京経済大学 一九九五年七月
- 6 学会展望「後撰集、詞花集時代の勅撰集、私撰集」『文学・語学』一九九五年一〇月号
- 7 書評 今関敏子著『色好みの系譜』『日本文学』一九九七年七月
- 8 書評 吉井美弥子著『みやび異説——源氏物語という文化』『日本文学』一九九八年四月
- 9 書評 菊池威雄著『恋歌の風景』『国文学研究』早稲田大学国文学会 二〇〇二年一〇月
- 10 書評 佐藤和喜著『景と心——平安前期和歌表現論』『国語と国文学』東京大学国語国文学会 二〇〇三年四月
- 11 学会誌コラム「東アジアという視座」印象記——侵略・支配・家族をめぐるって」日本文学協会大会シンポジウム第

五八回大会報告)『日本文学』「子午線」二〇〇四年四月  
学会誌コラム「アマゾン河畔の日本文学研究——アマゾ  
ン連邦大学の学会に参加して」日本文学協会『日本文学』  
「子午線」二〇一六年一月